



ファームウェアバージョン:	V2.10.022	
ハードウェアバージョン:	DGS-3630-28TC	A1
	DGS-3630-28SC	
	DGS-3630-52TC	
発行日:	2019/3/1	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

目次：

変更履歴とシステム要件：	2
アップグレード手順：	2
CLI（シリアルポート）を使用したアップグレード	2
Web-UI を使用したアップグレード	4
追加機能：	7
MIB および D-View モジュールの変更点：	8
コマンドラインインタフェースの変更点：	9
修正した問題点：	10
既知の問題：	12

変更履歴とシステム要件：

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
ランタイム：v2.10.022	2019/3/1	DGS-3630-28TC	A1
		DGS-3630-28SC	
		DGS-3630-52TC	

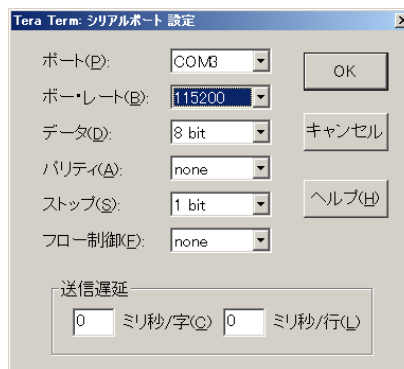
アップグレード手順：

アップグレードを行うには、CLI(シリアルポート)使用する、もしくは Web-UI から行うことができます。

CLI (シリアルポート) を使用したアップグレード

1. スイッチの RS-232C シリアルポート (コンソールポート) と PC を接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。(本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。)

- ボーレート：115200
- データビット：8
- パリティ：none
- ストップビット：1
- フロー制御：none



2. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。管理者のユーザ名及びパスワードは、初期状態では登録されていないので「enter」キー 1 回を押し、ログインします。
3. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
enable	特権レベルに移行します。
configure terminal	グローバルコンフィグモードに入ります。
exit	現在のコンフィグモードを終了し、最後に使用したモードに戻ります。
copy tftp: //LOCATION/SOURCE-URL flash: PATH-FILE-NAME	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
boot image	次回の起動時にイメージファイルとして使用されるファイルを指定します。
show boot	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
reboot	スイッチをリブートします。
Show version	スイッチのバージョンを表示します。

以下の例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

例:

- (1) スイッチにファームウェアをダウンロードします。

Switch>**enable**

Switch#**copy tftp: //10.90.90.100/DGS3630_Run_2_10_B022.had flash:**

DGS3630_Run_2_10_B022.had

Address of remote host [10.90.90.100]?

Source filename [DGS3630_Run_2_10_B022.had]?

Destination filename [DGS3630_Run_2_10_B022.had]?

Accessing tftp://10.90.90.100/DGS3630_Run_2_10_B022.had...

Transmission start..

Transmission finished, file length 15479892 bytes.

Please wait, programming flash..... Done.

- (2) ブートイメージを指定します。

Switch#

Switch#**configure terminal**

Switch(config)#**boot image DGS3630_Run_2_10_B022.had**

Switch(config)#**exit**

Switch#**show boot**

Unit 1

Boot image: /c:/ **boot image DGS3630_Run_2_10_B022.had**

Boot config: /c:/config.cfg

- (3) スイッチを再起動します。

Switch#**reboot**

Are you sure you want to proceed with the system reboot?(y/n) **y**

Please wait, the switch is rebooting...

注意：

スイッチのアップグレード中及び再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

(4) バージョンがアップグレードされていることを確認します。

Switch>**show version**

System MAC Address: xx- xx - xx - xx - xx - xx

Unit ID	Module Name	Versions
1	DGS-3630-28SC	H/W:A1 Bootloader:1.00.007 Runtime:2.10.B022

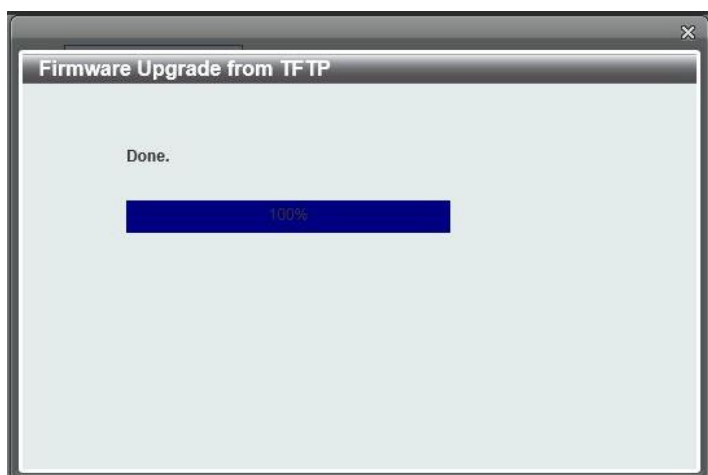
Switch>

Web-UI を使用したアップグレード

1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。デフォルトのシステム IP アドレスは 10.90.90.90 です。
3. PC 上で TFTP サーバを有効にします。(必ずご使用の PC に TFTP サーバのインストールを行っておいてください。)
4. お客様の PC から RJ45 ネットワークケーブル経由でスイッチにアクセスできることを確認し、Web 管理画面からログインしてください。管理者のユーザ名とパスワードは、初期状態では登録されていませんので「空白」でログインを行ってください。
5. スイッチのファームウェア更新を行うには、**Tools > Firmware Upgrade & Backup > Firmware Upgrade from TFTP** の順にクリックし、必要な情報を入力後、「Upgrade」ボタンをクリックします。

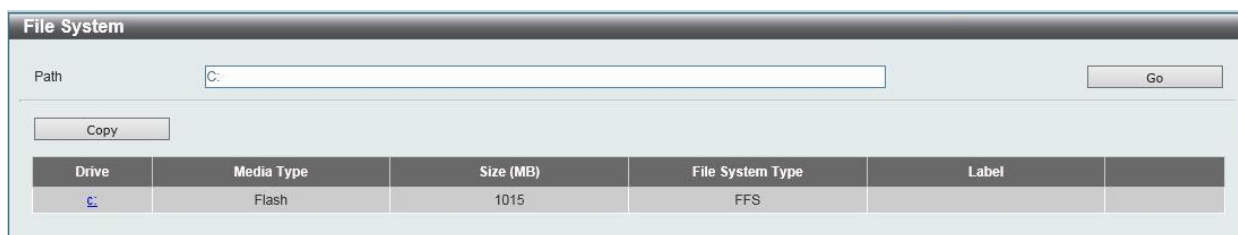
- TFTP Server IP: IPv4 もしくは IPv6 を選択し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
- Source File : TFTP サーバ上に保存したダウンロード済みのファームウェアファイル名を入力します
- Destination File : フラッシュドライブにファームウェアをロードするために、パスとファイル名を入力します。(例 : c:/DGS3630_Run_2_10_B022.had)

6. ステータス画面が表示されます。「Done. (完了)」ステータスを確認後、本画面を閉じます。



注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

7. 次回のスイッチリブート時にブートアップを行うイメージが選択するために、**Management > File System** の順にクリックします。



8. Drive 欄の C: をクリックします。
 9. 該当するイメージの行にある「Boot Up」ボタンをクリックし、ブートアップファイルとして設定します。



※Info 欄の * は、現在ブートアップファイルに指定されていることを表します。

10. ブートファイルの指定に成功すると「Success」と表示されるので、画面の「OK」をクリックします。

11. スイッチのリブートを行います。リブートを行うには、**Tools > Reboot System** をクリックします。



12. 「Reboot」 ボタンをクリック後、「Are you want to reboot?」 と表示されるので「OK」 ボタンをクリックし、スイッチを再起動してください。



注意：スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

13. システムの再起動後にログインし、ファームウェアのバージョンがアップグレードされていることを確認します。

追加機能：

ファームウェアバージョン	追加機能
V2.10.022	<ol style="list-style-type: none"> PoE モデルをサポート致しました。 PD Alive 機能に対応致しました。 CLI コマンドのユーザ定義エイリアス設定に対応致しました。 リンクステータスのログ設定に対応致しました。 Telnet/SSH 接続のログ/デバッグログメッセージの設定に対応致しました。 CLI の Exec バナーの設定に対応致しました。 VLAN Translation 機能で C-tag のプライオリティ設定に対応致しました。 セッションタイムアウトで外向きのセッションに対応致しました。 ARP Spoofing Prevention でログの設定に対応致しました。 IPv6 スヌーピングの Data-Glean 設定に対応致しました。 リンクアグリゲーションの Load Balance Algorithm 設定で MPLS ラベルに対応致しました。 CLI によるスタティック MLD グループの設定に対応致しました。 PIM-DM for IPv6 に対応致しました。 OSPFv2 で process ID 設定に対応致しました。 IP マルチキャストテーブルルックアップで IP モード/MAC モードの設定に対応致しました。 Super VLAN で IPv6 に対応致しました。 Zone-Defense 機能に対応致しました。 LSA のサイズを 4032bytes から 16383bytes に拡張致しました。 IP Source Guard 機能で VLAN インタフェース設定に対応致しました。 SFTP Client に対応致しました。 ポート毎の 802.1p キュー統計表示に対応致しました。 TLS 1.2 に対応致しました。 RFC4884 (Extended ICMP to Support Multi-Part Messages) に対応致しました。 LDP Hello メッセージの Source IP アドレス設定に対応致しました。 HTTP 接続時のパスワード暗号化に対応致しました。 OSPFv3 において、ソース IP インタフェースとしてのループバックインタフェースの通知に対応致しました。 show running config コマンド実行時の出力フォーマットを変更致しました。 PIM control message におけるユニキャスト及びマルチキャスト IP アドレスに対応致しました。 複数スイッチをまたいだリンクアグリゲーション (M-LAG : Multi-Chassis Link-Aggregation) に対応致しました。 SIM のトポロジ画面で Java Applet の使用を停止し、Java スクリプトを使用するように更新致しました。 SSH で SHA 256 に対応致しました。 Radius キー長の上限を 254 文字に拡張致しました。 TACACS+ アカウンティングの packets フォーマットで Service-Type に対応致しました。 MAC アドレスのフォースエージング設定に対応致しました。

35. SSH のソースアドレス設定に対応致しました。
36. OpenFlow1.3 設定に対応致しました。(CLI のみ)

MIB および D-View モジュールの変更点：

ファームウェアバージョン	MIB ファイル	変更点
V2.10.022	POWER-ETHERNET-MIB DLINKSW-POE-MIB	PoE モデルをサポート致しました。
	DLINKSW-POE-MIB	PD Alive 機能に対応致しました。
	DLINKSW-CLI-ALIAS-MIB	CLI コマンドのユーザ定義エイリアス設定に対応致しました。
	DLINKSW-SWITCHPORT-MIB	リンクステータスのログ設定に対応致しました。
	DLINKSW-SYSLOG-MIB	Telnet/SSH 接続のログ/デバッグログメッセージの設定に対応致しました。
	DLINKSW-VLAN-TUNNEL-MIB	VLAN Translation 機能で C-tag のプライオリティの設定に対応致しました。
	DLINKSW-ASP-MIB	ARP Spoofing Prevention でログの設定に対応致しました。
	DLINKSW-IPV6-SNOOPING-MIB	IPv6 スヌーピングの Data-Glean 設定に対応致しました。
	DLINKSW-LACP-EXT-MIB	リンクアグリゲーションの Load Balance Algorithm 設定で MPLS ラベルに対応致しました。
	DLINKSW-MGMD-EXT-MIB	CLI によるスタティック MLD グループの設定に対応致しました。
	PIM-STD-MIB IPMCAST-MIB DLINKSW-PIM-EXT-MIB	PIM-DM for IPv6 に対応致しました。
	OSPF-MIB DLINKSW-OSPFV2-MIB	OSPF process ID に対応致しました。
	DLINKSW-IPMCAST-EXT-MIB	IP マルチキャストテーブルルックアップで IP モード /MAC モードの設定に対応致しました。
	DLINKSW-SUPER-VLAN-MIB	Super VLAN で IPv6 に対応致しました。
	DLINKSW-IP-SOURCE-GUARD-MIB DLINKSW-IPV6-SRC-GUARD-MIB	IP Source Guard 機能で VLAN インタフェース設定に対応致しました。
	DLINKSW-SFTP-CLIENT-MIB	SFTP Client に対応致しました。
	DLINKSW-QOS-MIB	ポート毎の 802.1p キュー統計表示に対応致しました。
	DLINKSW-SSL-MIB	TLS 1.2 に対応致しました。
	rfc1213	VRF インタフェースの IP アドレス表示に対応致しました。
	DLINKSW-STACK-MIB	スタックの IP アドレス範囲に対応致しました。
	DLINKSW-MPLS-MIB	LDP Hello メッセージの Source IP アドレス設定に対応致しました。
	DLINK-MLAG-MIB	複数スイッチをまたいだリンクアグリゲーション (M-LAG : Multi-Chassis Link-Aggregation) に対応致しました。

	DLINKSW-SSH-MIB	SSH で SHA 256 に対応致しました。
	DLINKSW-AAA-SERVER-MIB	Radius キー長の上限を 254 文字に拡張致しました。
	DLINKSW-SFTP-CLIENT-MIB	SSH のソースアドレス設定に対応致しました。
	DLINKSW-IP-EXT-MIB	MAC アドレスのフォースエージング設定に対応致しました。

コマンドラインインタフェースの変更点：

ファームウェアバージョン	変更点
V2.10.022	<ol style="list-style-type: none"> terminal コマンドで monitor オプションに対応致しました。 banner コマンドで exec オプションに対応致しました。 ipv6 mld コマンドで static-group オプションに対応致しました。 show ipv6 mld groups コマンドで static オプションに対応致しました。 show mls qos interface コマンドで queue-statistics オプションに対応致しました。 discovery hello コマンドで source-address オプションに対応致しました。 show running-config コマンドの出力フォーマットを変更致しました。 arp、no ipv6 neighbor、show arp、ipv6 neighbor、no ipv6 neighbor、show ipv6 コマンドで force-aging-addr オプションに対応致しました。 ip ssh コマンドで source-interface オプションに対応致しました。 ip arp spoofing-prevention コマンドで logging オプションに対応致しました。

修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
V2.10.022	<ol style="list-style-type: none"> 1. dPoelfMaxPower の返り値が常に 0 となる問題を修正致しました。 2. DHCPv6 リレー設定において、リモート ID の UDF を「Hex」で指定した場合に ASCII 文字列に変換されない問題を修正致しました。 3. DEM-431XT/C1 接続時、正常にリンクアップしない問題を修正致しました。 4. DHCP スヌーピングの Station Move が有効化されている場合に、指定ポート上の同じ VLAN ID 及び MAC アドレスを持つダイナミック DHCP スヌーピングバインディングエントリが他のポートへ移動できない問題を修正致しました。 5. iSCSI イニシエーターを使用してファイル転送を行うとデバイスが再起動する問題を修正致しました。 6. VRF をご利用の際に、他の VLAN Interface と重複する IP Subnet を指定すると、VLAN Interface 側の ARP エントリが正しく表示されない問題を修正致しました。 7. LACP において IP トラフィックが適切に分散処理されない問題を修正致しました。 8. BGP のネットワークアドレスに対して 27bit 以上のサブネットマスクで設定できない問題を修正致しました。 9. clear counter all コマンドを実行した際に linkchange カウンタが削除されない問題を修正致しました。 10. 10G ポートで iflnDiscards カウンタの値が高くなる問題を修正致しました。 11. Q-in-Q が有効化されている場合に VLAN の outer タグが外れる問題を修正致しました。 12. running-config と lldp run コマンドの出力結果において、lldp management-address の値が異なる問題を修正致しました。 13. IPv6 設定において Global unicast address が取得できない問題を修正致しました。 14. DoS Prevention 機能において、"dos-prevention blat"を有効にした場合に、UDP が対象になっていなかった問題を修正致しました。 15. MPLS 機能利用時、スイッチ同士の接続を行うと pause モードになることがある問題を修正致しました。 16. WCMP が上限値を超えた際のエラーメッセージが CLI と WebUI で異なる問題を修正致しました。 17. CLI における channel-group 設定時のエラーメッセージを修正致しました。 18. SNMP において dDdmIfInfoCurrentTxPower/dDdmIfInfoCurrentRxPower の値が正しく取得できない場合がある問題を修正致しました。 19. port-channel のカウンタが増加しない問題を修正致しました。 20. 複数の Vlan を設定した Trunk Interface に対し、flex-link の設定を行った場合、再起動後に設定が消失する問題を修正致しました。 21. VRF 構成において、Radius サーバとの通信が正常に行われない問題を修正致しました。 22. copy log tftp: コマンドにより転送される log 情報について、不適切な文字コードが含まれていた問題を修正致しました。 23. copy log rcp: コマンドにより転送される log 情報について、不適切な文字コードが含まれていた問題を修正致しました。 24. copy sftp: running-config コマンドにおいて、エラーのため、実行されない問題を修正致しました。 25. Mgmt0 に IP Address が割り当てられていない状態において、Telnet クライアントが動作しない問題を修正致しました。 26. mac-auth 機能において、認証情報に関する SNMP Trap の OID の一部が誤っていた問題

を修正致しました。

27. Stack 構成でご利用の場合に、Stack Master が切り替わることで Link Aggregation 経由の通信が不可となる問題を修正致しました。
28. VPLS インタフェースにおいて LBD が正常に動作しない問題を修正致しました。
29. DHCP プールに MAC アドレスを設定できない場合がある問題を修正致しました。
30. PTP モードが boudary の場合にタイムスタンプが正常に取得できない問題を修正致しました。
31. sh run interface vlan コマンドを実行すると IP ヘルパー設定が削除される問題を修正致しました。
32. スタック構成において NLB の ARP エントリが共有されない問題を修正致しました。
33. スタック構成において NLB パケットのループが発生する問題を修正致しました。
34. Trunk メンバポートに対して ERPS を有効化できない問題を修正致しました。
35. 無効化した Community 設定が、スイッチ再起動後に復活する問題を修正致しました。
36. Egress ACL でパケットが適切にフィルタされない問題を修正致しました。
37. VPLS ローカル AC 環境において、VLAN 設定範囲の一部に転送されない問題を修正致しました。
38. show run コマンドによる LLDP 情報が正しく取得できない問題を修正致しました。
39. VRF インスタンスの IP アドレスを削除する際の警告メッセージを追加致しました。
40. CPU 使用率が高くなることある問題を修正致しました。
41. Box_ID が Auto に設定されている場合、ブート時に LAG が正常に動作せずループが発生することがある問題を修正致しました。
42. 異なるネットワークを介したルーティングを行う際、OSPF によるルーティングが適切に処理されない場合がある問題を修正致しました。
43. Membership Query が送信されない場合がある問題を修正致しました。

既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題
V2.10.022	<ol style="list-style-type: none"> copy running-config ftp: コマンドにおいて、DGS-3630 が IDENT を破棄するために異常終了する問題。 対処方法：以下のコマンドの適用と確認を行ってください。 <pre>Switch#configure terminal Switch(config)#no network-protocol-port protect tcp Switch(config)#end Switch#show network-protocol-port protect TCP Port protect state: Disabled UDP Port protect state: Enabled</pre> MSTP 機能において、instance vlans が 512 で分割して表示される問題。 R1.00.B060 と R2.10.022 間のコンフィグ互換性の問題。(制限事項) <ol style="list-style-type: none"> R1.00.B060 から R2.10.022 への設定の引継ぎは可能(アップグレード及びリストア) R2.10.022 から R1.00.B060 へ設定引継ぎは不可(ダウングレード及びリストア) Vlan Interface を経由して Mgmt 0 の IP address 宛に通信を行う事が出来ない問題。 LACP/STP/ERPS/.1x/MBA の機能によってパケットの送信が制限されている場合でも、TX の Mirroring が行われる問題。 Broadcom の Chipset limitation により、10Mbps/Half Duplex で Link Up しない問題。(制限事項) 10G での auto-negotiation 情報を表示できない問題。(制限事項) 10G ポートでの auto-downgrade をサポートしない問題。(制限事項) MPLS が無効な Connected 経路は MPLS table に載せることは出来ない問題。(制限事項) Cable Diagnostic を実行すると、対象の Port において Link Down を伴う問題。(制限事項) IGMP Snooping において Querier Emulation をご利用の環境で、Specific Query の間隔が設定値より短くなる問題。(制限事項) DEM-431TX-DD/A1 をご利用の場合に、"TX power high warning threshold exceeded"の log が記録される問題。 対処方法：規定値から下記の値に変更してください。 <pre>Switch(config)#transceiver-monitoring tx-power ethernet 1/0/25 high alarm dbm 0 Switch(config)#transceiver-monitoring tx-power ethernet 1/0/25 high warning dbm -1</pre> WARNING: A closest value 0.7943 is chosen according to the transceiver-monitoring precision definition.

Copyright 2006-2019 D-link Japan K.K.